

平成19年度学術創成研究費 中間評価結果

研究課題名	骨免疫学の創成	研究代表者名	高柳 広
-------	---------	--------	------

該当箇所( )に 等の印を付け、意見を記入してください。

1 研究を推進する必要性について

推薦の趣旨に照らし、採択時以降の関連研究分野の学術動向を踏まえた上で引き続き研究を推進する必要性は高いか

- ア( ) 高い
- イ( ) やや高い
- ウ( ) やや低い
- エ( ) 低い

意見：  
高いオリジナリティを持った成果を挙げ、質の高い発表を行っており、関連分野の発展のために研究を推進する必要性が十分にある。

2 研究の進捗状況について

(1) 当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展しているか

- ア( ) 予定以上に進展している
- イ( ) 概ね予定どおり進展している
- ウ( ) やや遅れている
- エ( ) 遅れている

意見：  
研究の分散化が起こらないように研究目的を明確にして、知見の集積の基に概念の深化がはかれることを期待したい。

(2) 今後の研究推進上、問題となる点はないか(ある場合に回答、複数回答可)

- ア( ) 研究経費
- イ( ) 設 備
- ウ( ) 組 織
- エ( ) そ の 他

意見：  
問題無し。

3 これまでの研究成果について

当初の研究目的に照らして、現時点で期待された成果をあげているか(又はあげつつあるか)

- ア( ) 期待以上の成果をあげている
- イ( ) 概ね期待された成果をあげている
- ウ( ) 期待された成果をあげつつある
- エ( ) 期待された成果はあがっていない

意見：  
個別の研究は成果を確実にあげている。骨免疫学という概念から骨特異性の問題へと更に研究が進められる事を期待したい。

#### 4 研究組織について

研究者相互に有機的に連携が保たれ、活発な研究活動が展開される研究組織となっているか

ア ( ) 有機的に連携が保たれている

イ ( ) あまり有機的に連携が保たれていない

ウ ( ) その他

意見：  
問題ない。

#### 5 研究経費の使用状況について

研究経費は効率的・効果的に使用されているか

ア ( ) 効率的・効果的に使用されている

イ ( ) あまり効率的・効果的に使用されていない

ウ ( ) その他

意見：  
問題ない。

#### 6 研究課題の総合的な評価

該当欄	評価結果
A +	当初計画を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
A	当初計画どおり順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
B	当初計画より研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初計画より研究が遅れ、研究成果も見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

##### 総合的な評価意見：

骨免疫学の創成というテーマのもとに全体として順調に研究を遂行している。骨形成の網羅的な解析によって骨免疫学の全体像を明らかにしようとしているが、免疫学の概念をのりこえた骨特異性を示す創造的な研究領域が創成される事を期待したい。